

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和 7 年 6 月 4 日～6 月 14 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：6 年

学籍番号：200973454

氏 名：波多野 絢太

1. 参加目的

私が海外臨床薬学研修へ参加した目的は、海外の病院や薬局を見学し、異なる医療システムや薬物療法を学びたいと考えたからである。また、日本と海外の薬学育成の違いについて理解を深め、薬剤師の専門性向上のために必要な取り組みを学びたいと考え、参加した。

2. 研修内容

【研修テーマ】

日本とアメリカの薬剤師の役割と薬学教育

【研修目的】

月日	研修内容
6 月 5 日	・ 校内見学 ・ 講義（アメリカの薬学教育、大学院教育、医療モデル）
6 月 6 日	・ 講義（地域薬局の概要） ・ 地域薬局の視察
6 月 7 日	・ 文化交流
6 月 8 日	・ 文化交流
6 月 9 日	・ 講義（病院薬剤師の概要） ・ シュミレーションの見学・体験 ・ 無菌調製
6 月 10 日	・ 講義（外来診療の概要） ・ 外来診療のシュミレーション
6 月 11 日	・ リハビリテーション施設の施設 ・ 病院の視察
6 月 12 日	・ 大学内研究室の視察 ・ 研究内容の紹介

【研修内容の詳細】

サンフォード大学内の講義では、アメリカでの薬学教育や薬剤師の役割について学んだ。アメリカの薬学部では、2年間の pre-pharmacy 教育を経て4年間の専門教育を受けるのが一般的である。はじめの2年間は、物理学や有機化学、生物学などの基礎科目を履修し、専門教育の4年間では講義に加え、IPEE や APPE と呼ばれる実務実習を行う。これら6年間過程を修了すると、NAPLEX と MPJE と呼ばれる2つの試験を受験し、両方の試験に合格すると薬剤師免許が取得できる。また、薬剤師免許取得後にレジデントとして1~2年間活動し、専門性を磨くこともできる。

アメリカの薬局・病院の見学では、実際に働く薬剤師や調剤業務をサポートするテクニシヤンの方にお話を聞きながら、薬剤師の役割を学ぶことができた。薬局薬剤師の役割として、薬の提供だけではなく、薬の使用方法や生活習慣指導といった患者教育や予防接種などを行っている。この見学を通して、薬剤師は地域社会の健康を支える重要な存在であると感じた。一方で、病院薬剤師の役割として医薬品の管理・調剤から患者のケアまで幅広い活動を行っている。医薬品の管理では、PYXIS や OMNICELL を活用し、看護師が正確に薬剤をピッキングできるようにされていた。患者のケアでは、入院患者の服薬の確認や退院時の薬剤指導が行われている。また、患者情報の管理を Epic で行い、薬剤師がリアルタイムで介入可能であった。

3. 感想

10日間のサンフォード海外臨床薬学研修を通して、日本とアメリカの薬学教育や薬剤師の役割の違いについて理解することができた。この研修の中で特に印象に残っていることとして、薬剤師に処方権があるという点である。日本の薬剤師は、発行された処方箋に基づいて薬剤を調剤しているが、アメリカでは依存型処方権が認められている。これによって、薬剤師は患者の薬物治療に深く関与できる。これらのことから、アメリカでは薬剤師の専門性が高く評価されていると感じた。

一方で、このような専門性の高さには、アメリカの薬学教育が関係していると感じた。特に病院薬剤師では、薬学教育課程の6年間で卒業した後に、レジデントとして2年間活動する必要がある。レジデントは、本来の給料の1/2であるが、病院や外来診療での実務経験を通してより専門性を磨くことが可能である。私はこのレジデント制度を日本でも積極的に採用し、薬剤師の専門性を高めることが、患者から求められる薬剤師には重要ではないかと感じた。

本研修を通して、日本とは異なる薬剤師の役割を知ることができた貴重な機会であった。今後、薬剤師として活動してく上で、今回の経験を活かしながら自身の専門性を高めていきたいと考えている。

最後に、このような貴重な機会をいただき、現地で活動のサポートをくださった先生方に深く感謝申し上げます。